

生活創造専修

家庭科分野

小学校
コース

中学校
コース

生活を見つめ、未来の暮らしを創る

家庭科は「私たちの未来の暮らしを創る教科」です。自分の暮らしは周りの人と協力しながら、自分自身の力で創っていくものです。そのためには、生活するために必要とされる知識や技能を習得すること、社会と生活・人との関わりについて学び考えること、生きていくために自分が何を大切にするのか見極めることが必要です。

家庭科は生活に関わる食物、被服、住居、家庭経営、保育など様々な領域からなっています。4年間でこれらすべての領域について広く学び、特に3、4年次には自分の興味のある分野についてさらに深く学ぶ家政学演習・卒業研究に取り組みます。

卒業研究は学ぶということ、論理的に考えるということ、身をもって理解する大切な機会であり、皆さんのその後の生活において、大きな自信と誇りになるでしょう。自分の暮らしを創ること、家庭科という教科を教えることについて学んでいきましょう。

こんな授業 こんな研究

吉川 はる奈 教授

「子どもの成長・発達の不思議、面白さ」を追求する

生活する子どもの姿に焦点をあて、その特性や支援のあり方について研究しています。家庭科分野では、「保育学(実習及び看護を含む)」や「子ども・子育て支援論」等の授業を担当し、学生が子どもの姿を具体的にイメージし、特徴をとらえ、思いを共有し、個々に合わせて対応できることをめざしています。大人にとってあたりまえでも子どもが見せる動き、仕草にはそれぞれ子どもなりの意味があると考えたと関心は広がります。子どもは人のなかに生まれ、人のなかで育ちます。そして生活の中で経験を積み重ね、育ちます。だからこそ「生活する子どもの姿」、日常場面でみせる子どもの姿にこだわります。1つとして同じものはありません。子どもが心身ともに健康に育つための教育、支援につながるよう、よりよい環境づくりに寄与したいと願い、日々、教育・研究を進めています。



専任教員

重川 純子	家庭経営学
川端 博子	被服学
上野 茂昭	食物学
島田 玲子	食物学
亀崎 美苗	住居学
吉川はる奈	児童学

主な授業科目

初等家庭科指導法、中等家庭科指導法、家庭経営学、生活経済学、消費生活論、家族と法律、被服学、被服学実習、食物学、食品栄養学、食品栄養学実験、調理実習、調理科学、住居学、生活環境論、保育学、子ども・子育て支援論、生涯発達と家族、家政学演習 他



分野学生の交流会



親子を招いて子どもの観察(保育学)



東京証券取引所見学(消費生活論)



住居ゼミでの製作風景



STUDENT'S
VOICE

2年生
宇敷 優花

家庭科は、生活する上で誰にとっても欠かすことのできない教科です。何かを購入し、食事をとり、衣服を着用し、住居を構え、家族や地域社会と関わり、命を繋ぐ。これらの生活行為に一切関与しないという方はいないはずですので、家庭科での学びは、「生きる力」の育成と深く関係すると私は思います。

家庭科分野では、衣食住だけでなく、保育や家庭経営、家庭科教育学といった多岐にわたる領域を学びます。そして、文系、理系の垣根を超え、教科横断的、多角的な視点で身の回りの課題と向き合うことができます。新たな発見に包まれた4年間で、持続可能かつ豊かな暮らしを共に創造していきませんか。